

1 自己評価及び外部評価結果 (2F)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271201301		
法人名	株式会社 ワカバ		
事業所名	グループホーム ワカバまつど		
所在地	千葉県松戸市胡録台284-51		
自己評価作成日	平成30年2月1日	評価結果市町村受理日	平成30年7月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7
訪問調査日	平成30年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

(1F用紙に記入済みです)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果 (2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内の数ヶ所に事業所理念を掲示し、スタッフに周知・共有を図っている。笑顔を大切に地域の方や利用者様と接することを大切にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や地域で行われる行事(自治会の公園清掃、餅つき、避難訓練、ハロウィンなど)に積極的に参加したり、回覧板を届けた際や近隣の方との挨拶を欠かさないことで地域の一員としての交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	向かいの小規模多機能施設や認知症対応型デイサービスと協力して不定期ではあるが認知症カフェを開催し地域の方の参加を通じて認知症理解や悩み相談などの機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の定期的な開催を通じて、利用者状況や行事予定・報告、意見交換を行っている。議事録は全職員で回覧し、会議で上がった意見はスタッフミーティングでの議題に取り上げ、サービス向上に繋がるように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、介護相談員の訪問があり、ご利用者の状態や事業所の状況・取り組んでいることをお伝えし情報共有に努めている。また、担当者からのご意見は真摯に受け止めサービス向上に繋げている。行事のあるときにはご案内し、参加をして頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修や必要に応じて、身体拘束についての理解を深めるべく職員同士の話し合いの場を設けている。また、提案・意見を気軽に交換することで皆が正しく理解できるような環境作りをしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や必要に応じて、高齢者虐待についての理解を深めるべく職員同士の話し合いの場を設けている。また、事業所や上下関係の風通しを良くすることで入居者様への悩みや不満をひとりで抱え込まないような環境作りをしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営者がセミナーに参加し、管理者や職員に内容を周知することで、それらを理解し必要があれば活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書の読み合わせを必ず行い、ご利用者やご家族に契約内容を正しく理解して頂けるように努め、不安や疑問点なども伺いご理解・ご納得をして頂けるよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者からは日常的に、ご家族からは面会や電話を通じて、意見や要望などを伺うように努めている。また、月に1度介護相談員の訪問がありご利用者の話を聞いて頂いている。意見や要望は記録に残すことで職員にも周知し、良いものは積極的に取り入れるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案事項などを稟議書にて運営者に提出する仕組みがある。管理者だけでなく、職員も稟議書を書き行事提案を行っている。また、毎月の責任者ミーティングでは職員の意見や提案を報告している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に応じた基本時給のほか日勤手当・資格手当・経験年数に応じた手当支給や、保育支援制度、キャリアアップ支援制度などを設けて、職員が働きやすい環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員と密に連絡をとることで職員の実際の把握に努めている。新規採用者は、研修期間を設けて面談や力量評価を行いながら育成している。担当職員が教えることで、自身の振り返りにもつながりトレーニングがお互いのスキルアップにもなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松戸市認知症高齢者グループホーム協議会に入会し、管理者は定例会へ積極的な参加をして同業者と交流を図っている。また、他グループホームの運営推進会議にも参加し交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話の時間を常に持てるよう心がけている。要望・不安等スタッフが気づいた点を連絡ノートに記し、全スタッフが回覧・把握し、より良いサービスを提供できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困りごと、不安、要望等は回覧してスタッフ全員が把握することで関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対話を重視し、必要としている支援を見極めて常に必要なサービス・変化に応じたサービスが出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの体調によっても出来ない時があり確認しながらお手伝いをして頂いている。また食事は一緒にし、趣味についてや好きな食べ物についてや季節の話題をしたり、なるべく会話をするように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、日々の生活の様子や健康状態をご家族にお伝えしたり、ホーム内行事になるべく参加して頂けるようにして、ご家族と一緒に頑張ってご利用者を支えていくような関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前にいた施設や施設職員との交流を、今でもとても楽しみにしており、時間や曜日の調整をして交流の継続支援をしている。また、友人の来所もあり居室でゆっくり過ごせるよう配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で各ご利用者の性格を把握していき、孤立しないよう沢山声をかけるように努めている。また、相性の良い人同士で席が近くなるようにして自然とご利用者同士で関わりが持てるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居されたご利用者には、ケアマネやご家族に転居先でのご様子を伺ったり、面会に行ったりしている。ご逝去されたご利用者のご家族には、お元気だった当時の写真をご希望があれば送るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の暮らしの中で、ご利用者との会話の中から要望や隠れた思いなどを引き出すように努め、それを申し送りや連絡ノートに記録し職員で情報を共有・検討し、実現可能であれば取り入れている。把握が困難な場合は、ご家族にお元気な頃の暮らしぶりをお伺いし、その人らしく過ごせるよう出来ることを検討し実行している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のケアマネやご家族からの情報とアセスメントであったり、日々の会話の中から多くのことを聞き取ると共に、入居後もご家族の面会時には生活歴や暮らしぶり、趣味など多方面の情報を収集するように取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの中で、一人ひとりの生活パターンであったり、発言から理解できるものの考え方や状態、日常の動作から出来ることの把握を行っている。連絡ノートや申し送りで情報共有をし、職員が今ある力を正しく理解できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者、ご家族、主治医、看護師などのチームがサービス担当者会議以外でもご本人と会話の機会を多く持ち意向を知り、情報共有することで、その人らしい暮らしとなるような介護計画を作成できるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カードックス、連絡ノート、往診ファイル、受診ノートの活用や申し送りで、日々の情報の共有を図っている。個別ケア検討や担当者会議で出た気づきや意見を介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランに沿ったサービスの提供をしている中で、ご本人やご家族からの希望があった場合は臨機応変に対応するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年6回運営推進会議を開き、自治会、地域包括支援センター、民生委員、他施設の職員の方々にご参加頂き、地域のことや楽しみごとについての情報を頂いている。また夏祭り(24TVチャリティー募金)には毎年近隣から多くの方が参加して下さり、ご利用者と地域の方との交流がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の定期往診、週1回の歯科往診、その他として個別往診や訪問マッサージ等の受診をしている。提携のクリニック以外を希望されるご家族様にも協力してもらい希望の医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は提携クリニック以外に、週1回訪問する者がおり訪問したら必ず各ご利用者の健康状態を個別に診ている。看護師ノートもあり状態の記録をし、管理者やケアマネと常に連携・情報共有をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際はスムーズに必要な医療が提供されるよう、ご利用者の入院前の状態や既往歴、服薬している薬についての情報等を病院関係者に提供している。また、ご家族や病院関係者とも連絡を取り合い良好な関係を築くよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化した際のあり方を、ご家族やご入居者に伺っている。実際、重度化した場合にも改めて主治医、看護師も交えて説明しご希望を伺いなおしている。そのご希望に沿ったケアを進めるために関係者がチームで支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は年1回緊急対応の内部研修を必ず受けている。その他、研修とは別に看護師やケアマネ等からそのときのご利用者に沿った処置の仕方の勉強会も開かれている。また、消防署と直結した電話回線もある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防・避難訓練がある。また、災害に備えて非常食や発電機、水などの備蓄の用意がある。避難訓練では、近隣住民に見守りを行ってもらうなどの参加依頼もしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりに合った声の大きさや、口調での声掛けや態度で接するように取り組んでいる。排泄介助時もプライバシーが保てるように取り組んでいる(職員間の会話からご利用者が排泄の内容などが分からないように言い方を変えたりしている)。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者のしたいこと・望んでいること・出来ることのサインを日常生活の中で見逃さないように努めており、申し送りや連絡ノートを活用して職員間で共有している。また、希望の表出までに時間がかかる場合もあるが、急がずに待つよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人ひとりのペースを大切にして、個人の思いとそれぞれに合った生活がおくれるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1人ひとりの好みを把握し、日常生活の中でおしゃれを楽しんで頂けるように取り組んでいる。散髪は、訪問美容を利用したり職員が好みを聞いてカットしたりしている。男性の髭剃りの介助も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー作成時には、ご利用者の意見や好みを聞きながらバランスを考えて作成している。行事食や季節に合わせた食事を提供し、季節感を楽しんで頂けるよう努めている。ご利用者には、食事の準備や片付けを手伝って頂き、共同作業に取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに偏りが無いようメニュー作成をしている。特に塩分には気をつけ、薄味を心掛けている。食事量や水分摂取量は日々記録し把握に努めている。お粥やミキサー食など、その人に合った食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に合わせた口腔ケアを実施。部分入れ歯の人は歯間ブラシや一本ブラシ等を使用しスタッフが仕上げ介助をしている。口腔ケアチェック表を活用し、実施忘れを防止、スタッフへの口腔ケアの大切さの意識付けを行い、夜間は義歯をお預かりして清浄剤での消毒を行って清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の記録を基に、個人に合った声掛け・トイレ誘導を行っている。トイレの場所が分からなくなり居室内や廊下で用を足してしまう方には声掛けしてトイレへ誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便記録を参考に、服薬だけに頼らず水分補給や果物・ヨーグルト等お腹に良い食事を提供するなど工夫をしている。また、イスに座って出来る軽運動やトイレでの腹部マッサージも取り入れ便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の体調・気持ちを考えての入浴を心掛けている。入浴時には介助スタッフと会話を楽しんだり、入浴剤も季節にちなんだ物を使ったりして入浴が楽しめるように取り組んでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の気持ちを一番に考え、TVが好きなご利用者にはTVが良く見える場所に座って頂いたり、足がすぐになるご利用者には食後はソファで足を伸ばして頂いたり、昼寝が習慣のご利用者には昼食後は昼寝をして頂くなど、それぞれのペースを尊重した安息・休息を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者が処方されている薬の副作用や禁食の情報を職員全員が把握している。また、薬の変更・臨時薬などは往診ファイル・連絡ノート・薬情報ファイルを活用し職員同士でも確認するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、リビングや廊下の掃き掃除など、その人の出来る範囲でお手伝いをして頂いたりご利用者が出来たことなどを、褒めたり感謝の言葉を伝えることで意欲を引き出せるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族にも協力をお願いして、ご利用者の希望に沿った外出が出来るように支援している。近所の他の施設(デイサービス、小規模多機能)でのレクリエーションにも希望に沿って参加できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は管理者が金庫に保管しており、必要時に本人に渡している。また、希望があればご本人と一緒に掛けて好きな物を買えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話がしたいと希望があれば、電話をかけてつなぎ、話ができるようにいつでも対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔であることを常に心がけ、掃除・消毒・除菌等を心掛けています。また、リビングの壁やテーブルには季節によって飾り付けをし季節感を演出したりCDで唱歌や童謡をかけ、落ち着いた気分で居心地良く過ごせるように心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の時間以外は、好きな場所に座って過ごして頂けるようにしている。また、椅子の他にソファも用意して足を伸ばしてくつろぐことも出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、家で好んで使用していたものをなるべく持って来て頂くよう説明し、TV・タンス・仏壇・イスなどがある。また家族との写真や、愛用していた衣類を用意するなど親しんだものを多く用意し馴染みの環境に近くなるような工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に、もともとある表札とは別にスタッフ手作りの表札も用意して、わかりやすく工夫している。廊下・トイレ・浴室には手すりがあり、自立した生活が送れるように工夫をしている。		